インテリジェンスとしての統計

現在と未来の利用者のために

西村 清彦
内閣府統計委員会委員長
東京大学大学院経済学研究科教授

統計をインテリジェンスとしてみること

* インテリジェンスとは何か？
* 統計作成者になぜ必要なのか？

我々のミッション：（政府及び国民へ）意思決定のためのエビデンスを提供

* 様々な利用者
* 様々な利用ニーズ
* 変革と継続
* 利活用し易さの探求
* 国連の方向性に則すこと

国連　公的統計の基本原則

* 原則1：公的統計は、経済・人口・社会・環境の状態についてのデータを政府、経済界及び公衆に提供することによって、民主的な社会の情報システムにおける不可欠な要素を構成している。この目的のため、公的な情報利用に対する国民の権利を尊重するよう、公的統計機関は、実際に役に立つ公的統計を公正にまとめ、利用に供しなければならない。

ニーズを探る

* 既知のニーズと未知のニーズ
* 未知のニーズを探る
* 「不都合な真実」
  例. 2007～2008年　サブプライム危機

ニーズへの対応

* 現在：既知の意見に基づく対応
* 今後：未知のニーズをも意識した対応

* ニーズを探る能動的なインテリジェンス

情報通信技術の発展による インテリジェンス向上

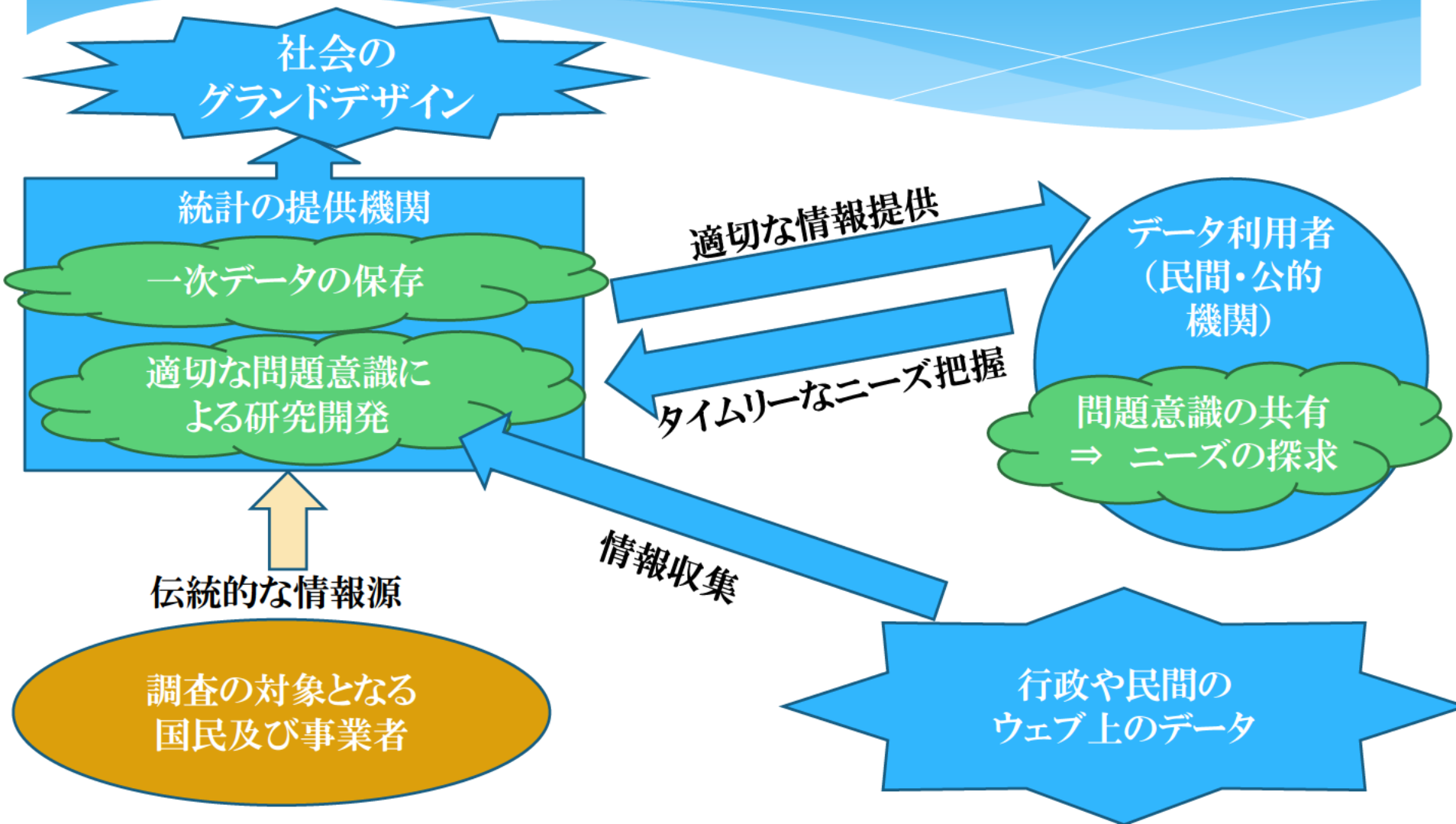
* 日本の統計の発展

1960年代～	コンピュータ時代
1990年代～	パソコン時代
2000年代～	ウェブ時代
2010年代～	「ビッグデータ」時代

一次データの重要性

* 一次データ　⇒　価値を増している
* 捨てられていた情報に新たな利用価値
  例. 大量の骨

能動的なインテリジェンス



日本の統計委員会

* 「日本の統計委員会」とは？
* メンバーの構成は？
* 統計委員会の目的は？

統計委員会で進めたこと（1）

これまでの主な取組

* ビッグデータの活用の検討（2015年4月）

課題

データの質
標準化

インテリジェンスによる指摘：
・景気指標としての利用に対する限界

統計委員会で進めたこと (2)

* 調査票情報の研究利用の推進（2015年8月）

課題

プライバシー保護
民間利用の制約

インテリジェンスによる指摘：
・オンサイト施設による利用
・データのオーダーメード集計の利用推進

統計委員会で進めたこと（3）

* CPIの家賃価格の品質調整（2015年9月）

課題

CPIにおける家賃価格の品質調整が行われていない

インテリジェンスによる指摘：
家賃価格の品質調整についての研究

統計委員会で進めたこと（4）

＊ その他の主な審議

統計	審議機関	主な指摘
国勢調査 （2015年10月実施）	2014年 6～10月	全国民（1．28億人）を対象にオンライン調査の導入は妥当
国民経済計算 （四半期）	2014年9月 ～15年3月	2008SNAのうちR＆Dの資本形成等の導入は妥当
家計調査（月次）	2014年 12月	サンプルの分布などの情報を公表すべき。調査の電子化を検討するべき
人口動態調査（月次）	2015年1月	外国人人口などの充実を検討するべき
経済センサス活動調査（2016年6月実施）	2015年 3～6月	個人企業への調査の簡素化などは妥当

今後の課題

* 職員の能力向上

インテリジェンスの専門家になること

⇒広い協力体制の構築

⇒世界的な統計能力構築への貢献